

△業界情報V

太平洋クラブのスポンサー選定に米投資銀行のGS参加
1次通過3社が判明、他は既報通りマルハン、PGM
4月末スポンサー契約へ、支援額は再生時と同程度か
GSのゴルフ場投資再開で、市場へのインパクト大に

本紙5482号既報通り1次入札の結果、スポンサー候補を3社に絞り込んだ会社更生手続中の㈱太平洋クラブ(東京都港区、永沢徹管財人)外5社だが、関係者の情報からその3社が明らかになった。

そのスポンサー候補は、すでに報じているパチンコホール経営大手の㈱マルハン(京都本社||京都市、東京本社||東京都千代田区)と、ゴルフ場運営大手のPGMホールディングス(株)、それに米投資銀行大手のゴールドマン・サックス(GS)。

GSは、平成13年12月にゴルフ場経営大手の日東興業(株)の株式を取得して、日本でのゴルフ場投資に参入。次々に破綻ゴルフ場を買収するとともにゴルフ場運営子会社の㈱アコーディア・ゴルフを東証一部に上場(18年11月)。23年1月にGSはそのアコーディアの保有全株式を売却、アコーディアとの業務提携も解消し、ゴルフ場投資を完結させた。

このため、GSの㈱太平洋クラブへのスポンサー立候補

には意外性があるが、GSは昨年から国内不動産投資をファンドを通じて再開しており、自社でスポンサーに立候補したことはゴルフ場投資を本格化させる姿勢ともみられる。

(株)太平洋クラブへのスポンサー額についても、GSはアコーディアが民事再生時に提示した280億円程度を提示し、1次入札時点では最も高かったと見る観測もあり、今後の2次入札で3社がいくらの額をつけるかが注目される。

太平洋クラブの民事再生手続きは、会員の多くが反対票を投じて否決されており、スポンサー候補のゴルフ場投資・運営姿勢も注目されるどころ。

GSなら、すでに業務提携を解消したといってもアコーディアに運営を委託する可能性があり、そうなった場合、会員がどう判断するのか。マルハンは会員組織の創る会が推薦しているだけに有力だが、ゴルフ場経営は初めて。パチンコ・パチスロメーカー大手・平和系のPGMは資金力も実績も十分だが、「無理に高い値段では買収しない」と明言しており、金額面でのセリはGSとマルハンが争うとみられる。

いずれにしても、管財人は今年4月30日のスポンサー基本契約締結を目指して、公正に2次入札手続きを行っていくとしている。現時点で管財人はスポンサー候補先の公表やプレゼンテーションは予定していないため、3社のスポンサー

額やゴルフ場運営方針は明らかではないが、太平洋クラブの
スポンサー選定にGSが参加し、ゴルフ場投資を再開させた
ことで、今後のゴルフ場再編動向に影響しそうだ。